NIE実践報告

1．タイトル：☆教科書と実社会を繋ぐ新聞　~　諸課題を主体的に考察する契機として~

2．学校名

和歌山県立橋本高等学校

3．実践者名（代表者名）

長峯　和之

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

公民科・現代社会　197人

6．単元（本時の学習課題）名

科学技術の発達と生命の問題（臓器移植について）

7．目標(狙い)

新聞記事を現代社会の諸問題を考察する契機として、現代社会の諸課題を主体的に考察させると同時に、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について主体的に考察することの大切さを自覚させる。

8．評価の視点

授業中の発表や小論文の提出により、学習に積極的に参加し、学習内容の本質を多面・多角的に考察しているか、学習を通して考察した過程・結果を適切に表現できているかを評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

現代社会の指導内容である「私たちの生きる社会」では、現代社会の諸課題の中より(1)科学技術と生命の問題（4時間）と(2)地球環境問題（2時間）を選択実施している。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1限目：教科書「科学技術の発達と生命の問題」の音読、新聞記事「中国で臓器仲介聴取へ」（読売新聞）を配布。新聞記事を区切りながら音読させ、難解な用語のみ解説した後、短い感想を書き提出させる。

第2限目：第１限目に提出された感想を紹介した後、新聞記事等の資料を配付。資料をもとに日本の臓器移植の現状と日本人が渡航移植を受けている現状や理由を理解させ、さらに日本人がフィリピンや中国で移植手術を受けていることの是非について考察させる。

第3限目：新聞記事等の資料を配付。資料をもとに「心臓死と脳死の違い」、「臓器移植法について」、「脳死判定後の蘇生の事例」などについて客観的な事実を知識として身につけさせる。

第4限目：既習の内容をもとに、臓器移植に関する自分の考えを600字程度で論文用紙に書き提出させる。

この授業では、新聞記事・書籍の抜粋・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞから取得した情報などの様々な資料を授業の展開に則して提示しながら、徐々に生徒の知識を増やし、更に蓄えられた知識を基にして問題を考察させるように配慮した。特に留意した点は、臓器移植の問題を徐々に深く掘り下げて考えられるように、段階的に資料を作成したこと、資料のｲﾝﾊﾟｸﾄを大切にするため、使用する直前に資料を配付したことである。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒の感想には「授業には必ず具体的な例がないと、まったくおもしろくないし、関心もわかない。今回は新聞によって臓器移植は身近なものだと感じられたし、臓器移植に関する様々な事情や問題について、多少なりとも理解できたので有効的だったと思う」などの感想があった。

12．成果と課題

研究テーマは「教科書の内容と実社会の事象を如何に繋げるか」と「現代社会の諸課題について如何に主体的に考えさせるか」であった。この課題の解決を目指して新聞記事を活用した授業を展開した結果、新聞の活用が生徒の興味関心を引き出し、現代社会の諸問題に目を向け考える契機となり、授業の活性化に役立ったことは間違いない。また、今後も新聞を活用した授業づくりを続けるためにデータベースの作成に努力する必要があること。更に、生徒に情報を収集し活用する能力を身に付けさせるためにも、インターネットなどを活用した授業を計画してみたいと考えている。